



新任のあいさつ

患者総合支援センター 副センター長 上倉 裕紀

日頃より、連携登録医の先生方、藤沢市医師会・歯科医師会・薬剤師会、行政、看護・介護・福祉関係機関等の皆様には、本院運営に対し深いご理解とご支援を賜りありがとうございます。

この4月に患者総合支援センター副センター長となりました上倉 裕紀（あげくら ゆき）と申します。「患者総合支援センター」は、名の通り、患者さんを総合的に支援する役割を担っています。常に、地域から、そして患者さんから求められていることを念頭に置いて、改善を繰り返し更なる地域連携の強化と円滑な医療連携の拠点となれるよう努めてまいります。

また、2021年（令和3年）に導入した「転院・退院クラウド管理システム」の活用範囲を藤沢市内の15病院から茅ヶ崎市、寒川町を含めた2市1町まで拡大し、更なる後方連携も深めていきたいと思っております。

「ときどき病院、ほぼ在宅」といわれている中、多職種と協働しながら、患者さんが住み慣れた地域へ戻っていけるよう連携を強めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

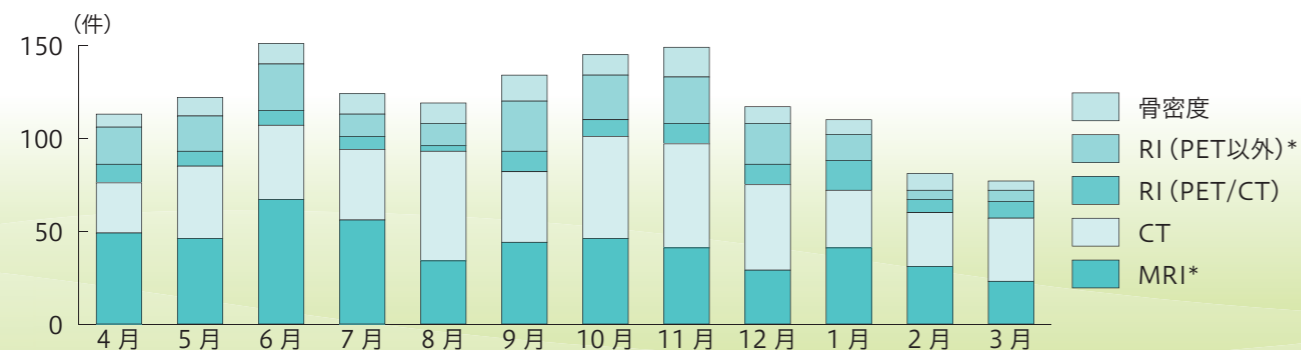
最後に、地域医療支援病院として運営していく上で重要な指標となる紹介率・逆紹介率をご報告いたします。連携登録医の先生方を中心とした地域医療機関（施設）とのパートナーシップをより強化していきます。急性期治療が終了した場合は、紹介元医療機関に逆紹介するという当院の方針を今後ともしっかり根付かせていきます。



◆令和5年度 紹介率・逆紹介率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
紹介率(%)	86.4	85.0	84.4	83.8	82.4	84.1	85.8	84.8	85.1	85.1	86.5	86.8
逆紹介率(%)	83.2	78.4	77.9	88.4	89.7	101.6	89.0	86.9	99.7	99.7	102.8	112.5
紹介割合(%)	95.2	96.1	94.4	95.4	96.8	96.4	97.0	99.3	97.8	97.8	98.6	99.2
逆紹介割合(%)	55.4	52.2	53.4	54.8	59.2	62.4	58.1	57.8	63.2	63.2	62.5	68.0

◆令和5年度 共同利用件数



*MRI、RIは装置更新のため、一部停止期間あり(2024年1月~3月)

院長のあいさつ

藤沢市民病院 院長 西川 正憲



連携登録医の皆さまには、日ごろから当院の運営にご協力いただきまして感謝申し上げます。院長の西川正憲です。

当院は、1971年の開院以来、藤沢市医師会、藤沢市歯科医師会、藤沢市薬剤師会をはじめ地域の医療機関、連携登録医の皆さまとの緊密な診療連携を築き上げながら、皆さまから信頼される地域の基幹病院、高度かつ高質な急性期総合病院として、常に「より良い医療」を提供するべく運営しています。皆さまのご支援ご鞭撻ご協力を賜りながら、地域医療支援病院、救命救急センター、地域がん診療連携拠点病院、小児救急医療拠点病院、周産期救急医療中核病院、災害拠点病院、第二種感染症指定病院、臨床研修指定病院などの

認定・指定を受け、湘南東部二次保健医療圏に限らず、神奈川県を代表する病院の一つとして発展することができています。連携登録医の皆さまをはじめ当院を支えてくださる全ての人たちからのご厚意の賜物であり、心から感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症は、2023年5月8日に感染症法上の5類感染症に位置付けられ、社会生活は活気を取り戻しつつあります。しかし、新型コロナウイルス自体の変異、病原性および感染後の重症化・症状遷延(いわゆる後遺症)などについては未知なことも多いのが事実です。また、新型コロナウイルス感染症以外の新たな感染症の流行も危惧され、適切な対応ができることも求められています。

当院では、引き続き適切な感染管理体制を継続し、皆さまから信頼される地域の基幹病院、高度かつ高質な急性期総合病院として、これまでを継承・発展しつつ、「より適切な地域医療連携が構築できる」「より多くの患者さんに選んでもらえる」「より良い医療を提供できる」「より良い医療人になる」ように、職員一同、今後も努力を続けてまいります。

2024年4月1日、患者総合支援センターに上倉裕紀副センター長を配置し、さらなる緊密な地域医療連携を構築できるようにしてまいります。

これからもご支援ご鞭撻ご協力を賜りたくよろしくお願い申し上げます。

病院幹部のあいさつ

副院長 岩瀬 滋

2024年4月より藤沢市民病院副院長2年目となりました。昨年に続き、医療技術部長、医療安全管理部長、栄養室長、患者総合支援センター長、内視鏡室長も兼務させていただきます。

近年、医療のニーズは高齢化と共に複雑になっており、医療の総合力・病連携・病診連携・医療と福祉の連携などが必要とされます。

当院の医療に関わる医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、臨床工学室、リハビリ室、栄養室などの医療職、さらには医療職以外の事務、助手、ドクターエイドなどすべての医療に関わる皆さんと共に、一人一人がその責任の一端を負っているという自覚の元、当院の医療を少しでもレベルアップできるように努めていく所存であります。

今後とも地域の連携登録医、病院、訪問看護ステーション、地域包括支援センターなどの皆様のご協力、お力添えをいただきまして進めてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

副院長 山岸 茂

副院長兼診療部長に就任して2年目を迎えました。2023年度の診療部における主な取り組みについてご紹介させていただきます。

新型コロナウイルス感染症が5類へと移行した中、救急領域では、救命救急センター開設以来初めて救急車受け入れ1万件を上回り、地域医療に貢献しました。また、循環器内科は不整脈に対するカテーテルアブレーション、脳神経外科は脳血管病変に対する脳血管内治療、整形外科は二次性骨折予防のためのリエゾンサービス(FLS)を積極的に行っています。がん診療においては、がんゲノム医療連携病院として乳がんや卵巣がん領域におけるゲノム医療を推進し、神奈川県立がんセンターとの連携体制を整えております。内視鏡センターでは、消化管がんに対する内視鏡的切除(ESD等)を積極的に行っており、手術治療においては、ロボット支援手術を泌尿器科、婦人科、外科が安全に施行し、チームとして軌道に乗った治療を提供しています。周産期医療では、NIPT(母体血を用いた新型出生前遺伝学的検査)を導入し、遺伝子カウンセリングを実施しております。

このように高度化、複雑化する医療の現場ですが、総合病院として各診療科が連携し、安心・安全な医療を提供できることが当院の特徴です。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

看護部長 駒野 美子

2024年4月から看護部長を拝命いたしました、駒野 美子(こまの よしこ)でございます。今年度の看護部は、副看護部長が2名から3名となり、今まで以上に活気あふれる新年度のスタートとなっております。

当院は、地域の基幹病院としての役割を担っており、地域のみなさまと連携を図り、適切なケアを行い、暮らしに戻る支援を行うことが求められています。その中で看護部は、「観察力」を強化し、チーム医療では欠かせない「対話力」をもとに「つなぐ看護」を実践し、安全で患者さんに寄り添った看護が提供できるよう努めてまいります。

看護部には、さまざまな分野の専門知識や技術を習得した専門・認定・特定行為研修修了看護師が多く働いております。看護師一人ひとりの専門性を活かしながら、地域のみなさまとの交流を深め、看護における地域連携に努めてまいりますので、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



左から 駒野看護部長・岩瀬副院長・西川院長・鈴木副院長・山岸副院長・峯事務局長

副院長 鈴木 勇三

2022年7月に非常勤副院長に就任して2期目となりました藤沢市医師会理事・横浜市立大学医学部臨床教授・クローバーホスピタル病院長の鈴木勇三です。医師会では、公衆衛生と病診連携を担当しています。藤沢市民病院と藤沢市医師会は湘南藤沢地区の医療の両輪です。地域医療支援病院である市民病院と市内各病院、およびかかりつけ医療機関との連携を促進し、より充実した地域医療体制構築を目指していきます。今年度もよろしくお願いいたします。

事務局長 峯 浩太郎

2024年4月に事務局長を拝命いたしました峯浩太郎と申します。藤沢市職員として36年目、これまで市民病院事務局で勤務した経験を活かしながら、「縁の下の力持ち」として藤沢市民病院を支えてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、当院では本年3月に「健全経営推進計画2027」を策定し、医療環境の変化等に柔軟に対応しながら、この計画に基づいた収支改善に取り組むことで、経営の効率化を図り、持続可能な病院経営を目指すこととしています。

限られた医療資源を最大限に活用できるよう業務改善を推進するとともに、地域医療支援病院として、また地域の基幹病院として、高度かつ高質な医療の提供と地域に必要とされる医療機能の強化・充実を図ることにより、市民から求められる医療ニーズに応えられるよう努めてまいりますので、引き続きご支援、ご協力をお願い申し上げます。